

アンケートで寄せられた「質問」とそれに対する返答

所属	分類	質問内容	質問に対する返答
入所施設	手指衛生	手洗いの仕方（手荒れがひどくなる）	手洗いの後、皮膚をこすらずに押さえるようにして、しっかりと水分を拭き取りましょう。水分が残っていると手荒れの原因になります。また流水手洗いの後にアルコール消毒を続けることも手荒れの原因になります。 個人用の保湿クリームをこまめに使用しましょう。悪化する場合は医療機関の受診を推奨します。
障害者施設	手指衛生	感覚過敏が強い方や皮膚が弱い方がいて手洗い後の消毒の拒否がある方が居て困っているのが代替え等があれば知りたい	
入所施設	職員の感染就業制限	職員が感染した時・職員の家族が感染し濃厚接触者となった時の出勤停止期間の設定をどうしたらいいか知りたい （発熱等がなければいいのか、濃厚接触者は出勤してもいいのかなど）	職員本人が感染した場合と、同居家族等が感染した場合では考え方が異なります。職員本人が感染した場合は、感染症の種類や症状の経過等を踏まえて出勤再開を判断します。新型コロナウイルス感染症では、5類移行後は法律に基づく外出自粛は求められていませんが、発症後一定期間は感染させるリスクが高いことから、国から外出を控えることが推奨される期間が示されています。 一方、同居家族等が新型コロナウイルス感染症に感染した場合、現在は「濃厚接触者」として行政から行動制限を求められることはありません。ただし、職員自身の体調観察や基本的な感染対策を行い、施設の就業基準等も踏まえて対応を検討してください。
入所施設	職員教育・訓練	日々の職員に対する感染研修の実施の仕方を知りたい	感染対策の基本となる「標準予防策」をしっかりと理解することが何よりも重要です。吐物処理、PPE着脱といった演習も日常業務に直結しているため重要ですが、それらの根拠となるのが標準予防策です。
入所施設	環境整備・消毒	私たちの施設が視覚障がい者の施設のため、手すりでの移動は必須です。消毒薬を時間毎、変えて行っていますが、それが正しい、有効なことなのか教えてください。	標準予防策において高頻度接触の環境面は、1日1回以上の消毒が必要です。消毒薬を時間ごとに変える必要はありません。施設内で発生する感染症に応じて消毒薬を変更することが望ましいと考えます。通常時は市販の除菌シートで十分です。下痢症状を呈する人が複数見られる期間は、次亜塩素酸系へ変更することが推奨されます。インフルエンザや新型コロナ感染症が見られる期間は、アルコール系または次亜塩素酸系への変更が推奨されます。
入所施設	環境整備・消毒	当施設では、入居者が共同トイレをみな使用している。平時の感染対策として、市販の除菌シートでふくのがいいのか、アルコール、薄めた次亜塩素酸、どれが効果的で、汚れた時だけでいいのいか、使用した毎ふきとらなければいけないのか？徹底できていません。ご回答をお願いします。	標準予防策において高頻度接触の環境面は、1日1回以上の消毒が必要です。トイレも同様です。ドアノブ・水洗ノブ・手すりなどが高頻度接触面となります。平時は除菌シートで十分です。汚れた際にはその都度拭き取り消毒します。 下痢症状を呈する人が見られたら、すみやかに次亜塩素酸系へ変更することを推奨します。下痢症状の人が使用した毎に（他の人が使用する前に）トイレの高頻度接触面の消毒が望ましいです。下痢症状を呈する人は、トイレ後の石鹸＋流水手洗いを徹底しましょう。
通所・訪問	消毒	通所リハビリの際に利用しているパワーリハビリ機器の、利用者1名ごとの消毒が非常に負担になっています。いつまで継続が必要でしょうか？	標準予防策において高頻度接触の環境面は、1日1回以上の消毒が必要です。パワーリハビリ機器表面も同様と考えますので、1日1回以上の消毒が必要です。平時は市販の除菌シートで十分です。 感染症状を呈する利用者が使用した後は（他の人が使用する前に）、咳・くしゃみ・鼻水など上気道症状ならアルコール系、下痢など消化器症状なら次亜塩素酸系で追加消毒することを推奨します。
障害者施設	環境整備 感染対策	感染症流行時、換気が必要になりますが、どのくらいの頻度で何分間行えば良いのか知りたい	換気の頻度や方法については部屋の広さ、利用者数、換気設備の有無等によって必要な換気量が異なるため「〇分ごと」とすることは難しいです。常時換気設備や換気扇がある場合は、可能な限り常時運転し、十分な換気量を確保してください。 窓開けによる換気を行う場合は、対角線など2方向の窓やドアを開けて空気の流れをつくるのが効果的です。目安として、30分に1回以上、数分間程度、窓を開けて換気する方法があります。可能であれば窓を少し開けた状態で継続的に換気する方法も有効です。
通所・訪問	環境整備 感染対策	訪問先の居室に窓が無く、換気が不可能な環境での対応について知りたい	窓がない部屋では、窓を開けて換気することができないため、換気設備を適切に使用することが必要です。また、換気設備の使用に加え、可能な場合はドアを開放して空気の流れを確保することも有効です。さらに、扇風機やサーキュレーターを使用することで、室内の空気を循環させ換気を補助することができます。